

した。低磁場 MR では骨の影響の少ない拡散強調画像が得られテンソル解析も可能である。

7 CARASIL 類似例の1女性例

登木口 進・小松 憲章*・関 雅也*
福武 敏夫**・伊藤 寿介***
岡本浩一郎****

小千谷総合病院神経内科
同 MRI室*
亀田総合病院神経内科**
三条三之町病院神経画像診
断センター***
新潟大学医歯学総合病院・
放射線部****

CARASIL は本邦に於て報告された特徴的疾患で、若年で高血圧などの危険因子を伴わず大脳白質にピンスワンガー病様の変化を来し、禿頭、反復性腰痛を伴い、常染色体性劣性遺伝である。我々は、両親がまたいとこであり29才頃発症した CARASIL と考えられた1女性例(39才)を経験した。大脳白質には広範囲な高信号を T2 強調画像で認め、禿頭を伴い、若い頃より腰痛持ちであった。脊椎の変化は軽かったが、女性には非典型例の傾向があると言われているためと考えた。

8 てんかん性笑い発作の画像

楚山 真樹・安住利恵子・亀山 茂樹*
増田 浩*・本間 順平*・上野 武彦*
国療西新潟中央病院放射線科
同 脳神経外科*

今回、事前の知識なくしては想像がつきにくいと思われる、てんかん性笑い発作と視床下部過誤腫の相関関係を紹介し、実症例画像を供覧した。てんかん性笑い発作の原因となる視床下部過誤腫につき、特にルーチン検査では普段あまり目のかないやや特殊な部位の、ともすれば小さくまた異常信号もはっきりしない腫瘍を対象としている関係で、事前に疑ってかからないと見落とすおそれがあり、あらかじめ視床下部過誤腫を想定して読影にあたる必要があると思われた。

II. 特別講演

「てんかん外科に関係した神経病理とその画像」

東京都神経科学総合研究所
臨床神経病理研究部門

新井 信 隆
東京都立神経病院神経放射線科
柳 下 章